

○ 地域の7つの集落営農組織で「地域資源由来肥料（鶏ふん）利用ネットワーク」を形成し、ネットワーク構成員のはね営農組合がコントラクターとなり、集落営農組織の水田ほ場に鶏ふん堆肥を散布。

■国内資源の種類

・鶏ふん

■肥料の種類・肥料名称

・種類：堆肥（特殊肥料）
・肥料名：発酵鶏ふん（粉状）、鶏糞ペレット（粒状）
・粉状、粒状ともに有機JAS資材として利用可能（登録済）

■取組の経緯・内容・成果（見込み）

取組の経緯
・JAしまね石見銀山地区本部管内（島根県大田市）には県内有数の採卵鶏農場があり、地域資源由来肥料（鶏ふん堆肥）は生産されるものの、大規模に散布可能な散布機や、散布を担うコントラクター等が育成されていなかったことから、鶏ふん堆肥の利用拡大には至っていなかった。
・このため、地区内の7集落営農組織で「地域資源由来肥料（鶏ふん）利用ネットワーク」を形成し、鶏ふん堆肥の散布を行う地域内のコントラクターを育成。

取組の内容
・ネットワークで水稻の生育状況や適正な散布量の共有を行い、ネットワーク内のはね営農組合がコントラクターとなり、管内の水田ほ場に鶏ふん堆肥を散布。

成果
・鶏ふん堆肥の利用拡大により化学肥料の使用低減に伴う栽培コストの削減、価格高騰や供給不安定化等といったリスクの低減になっている。
・大田市内で7集落営農組織が先行して鶏ふん堆肥の利用を始めたことで、他の法人や農業者にも取組が広がる見込み。

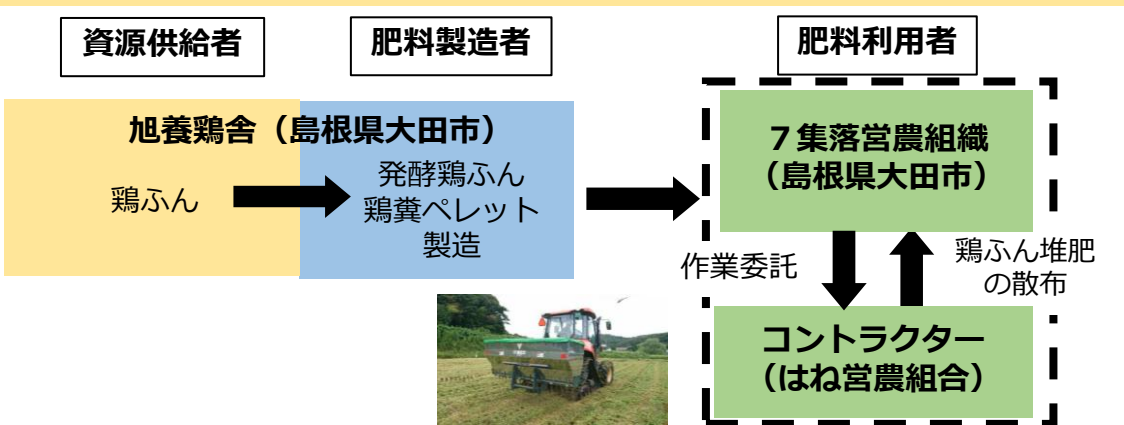
■作物

・水稻

■主成分の含有量(%)、特徴等

	N	P	K
発酵鶏ふん（粉状）	3.7	4.4	4.2
鶏糞ペレット（粒状）	3.7	4.3	4.1

■主たる取組主体と肥料利用までの流れ



■今後の課題・取組

・令和5年秋から本格散布し、水稻品種ごとの栽培暦（基肥鶏ふん堆肥バージョン）を作成予定。



散布機に入れられた肥料

コントラクターによる鶏ふん散布システム

肥料価格が高騰する中、化学肥料から地域資源由来の肥料（鶏ふん）への転換を進めるため、（農）はね営農組合がコントラクターとなって、集落営農組織や大型農家の水田圃場に鶏ふんの散布を行います。

コントラクター

（農）はね営農組合

散布料金

3,000円/10a

面積要件

1 法人当たり 5 ha以上

割引き

フォークリフト（ハイマスト4m以上）とその作業員を法人が準備される場合

散布料金 1,500円/10a

こんなに安い！ 肥料概算例（きぬむすめ）化成肥料はR5年産価格表より

【基本設計】元肥：化成肥料12-18-14(30kg) +

追肥：化成肥料17-0-17(30kg) → 12,485円

【省力型】元肥：水稻一発晩生用(40～45kg) → 12,152～13,671円

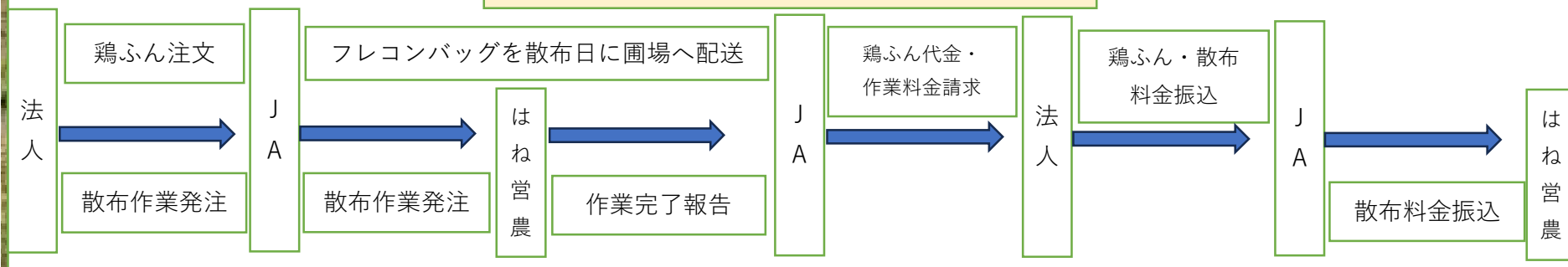
【鶏ふん型①】元肥：鶏ふん(マッシュ200kg) +

追肥：化成肥料17-0-17(21kg) → 5,015円

【鶏ふん型②】元肥：鶏ふん(マッシュ200kg) + (散布料金含まず)

水稻一発晩生用(18kg) → 6,701円

散布システムの流れ



お申し込み

J A しまね石見銀山地区本部営農推進資材課 電話 84-9070